

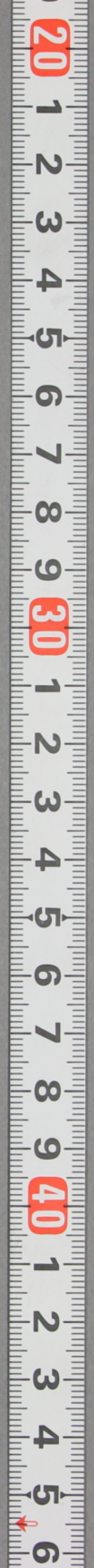


繪本漢楚軍談

二編

五

~ 13
3565
15



門 13
號 3565
卷 15

訂正 本漢楚軍談第二輯卷之五



東都 鷓鴣負高纂述

第四十回 韓信約法斬殷蓋

程の韓信の教軍場士卒と聚め、軍の訓練を怠るは早
くも大半の整とく、又々次の日も時刻と定め、惣軍と統正調と
五更の天を期限として皆一同来會とて、固く法令と觸示
去自己も五更の起立ち、夙め、教軍場に至り、既中軍に床几敷
構へ諸大将の集會を訊、程、祐司の官の側に出、善到を記し、人
數と負へ不忝人も可有りと、最丁寧と心と配、其部曲と差別
分配、折しも晨と司る、官人來りて小鐘を打る、夙も鷓鴣鳴
を報し、けは、韓信の稍立上り、隊伍一組の部將們を一々名

會本漢楚軍談第二輯卷之五

鷓鴣負高纂述

早稲田 大學 図書館
昭和 34.6.3 焚
蔵 書

を呼び點檢する小監軍殷蓋一個の事を来りて然れども是を侯小及
 びと并が俸ゆて教軍ある。調練已小時移りて午の刻と過る頃殷
 蓋漸く出て來り直小轅門不入りとするを番兵們推止め大元帥
 今朝よりして人馬を調練ある。今る不最中るものとて各門より
 大将の下知あるされ。誰人をも容易に通じざり。今若入る人ある時
 小轅門の牙將先報して牙將も軍政司告るの後小入るを許
 すと曾て法度せよとこれば尊公も如右して入りぬとゆふ殷蓋固あ
 りと冷笑ひつ大音揚何を瑣々として此の如く迂遠なる事や為や是
 小人の軋生輩が今僥倖ふ志願を遂て俄元帥とるて法令と亡せ
 小立て嗚呼がましく大将容態をさる故る。汝曹早く牙將告我
 と門内入るといふと云ひ番兵意得て此儀を牙將訴(ける次第

次第小韓信も傳へる隨即令を受巡哨官の進の字と書る牌を
 携て門に至り令違ふて遅く來りし。人を入ると呼ばる殷蓋少も
 怖る色も目を嗔りて徐々と進入元帥の帳下に至り長揖して
 立りて韓信の言辞を改め殷蓋不向いて申ける。漢王既不詔ありと
 我固く令を定む汝の監軍の職居て他の士との異なるふ却て法令
 守る治む何ぞ今迄來ざりしと云々時を告る者も時尅如何と
 尋むる未の刻近くと答ふ韓信又い申す我曾て令を出して卯
 の刻にまゝと約しり然るを午の下まで遅らせしとて易くね何を以
 致候を今軍令と輕ふとて監軍の職を失ひける嚮ふ法令十二ヶ条を
 諸軍示して定置し若尚これを緩ふせば逐小軍法の破る本
 汝が罪斬る不當と決して免さると能くと罵り責る大元帥の言辞を

夢て物ともしぬ。殷蓋の昔日より功績多き身。在るに已と慢と。韓信と軽と侮る心より。辭氣荒く言けり。其をも將軍の令。約束と聞ゆ。違ひて今日教場。出んとす。折測さし。親人の訪来。酒と没け。散と調。その饗食。應ふ時を殺し。止とす。運參せり。故犯せ。罪あらず。願ふ免し。ぬと事。も無は。謝し。けれ。韓信。佛然と怒を發し。左右。下知し。殷蓋を帳前。縛せ。めて曰。汝聞。大將の命と受つ。其日。其家。と忘る。軍旅。臨と約束。其親。と忘る。鼓と抱鐘と鳴。戦ふ時。不至り。其身。命。と忘る。汝。既。小君の祿。と受ると。年久し。豈。父子兄弟親戚の私情。と以。公義を軽ん。重に國事。と誤らんや。と軍政司を呼び。問て曰。殷蓋。命を凌に犯し。着到の期限。と破る。何。若の罪。と正さんや。と。

曹參。答る。期。違ふ。至らざらば。動作。師律。小。北。く者。慢軍の罪。不當。れ。斬て。諸軍。示。さ。べ。と云。韓信。うち。黥頭。即ち。列坐。る。武士。向。以。轅。門。引。出。疾。く。殷蓋。と。斬。る。と。嚴。く。令。を。傳。さ。ば。武士。輩。急。に。引。立。出。る。殷蓋。は。這時。創。く。駭。死。平。生。の。勇。氣。も。挽。果。て。膽。魂。も。身。も。必。ず。畏。震。と。行。形。態。屠。所。の。羊。小。異。る。と。勇士。の。衰。廢。却。哀。れ。る。樊。噲。噲。傍。に。坐。て。舊。友。の。斯。れ。ど。罪。に。陷。る。と。見。る。ふ。得。堪。む。只。俯。面。く。の。居。る。と。殷蓋。も。胸。を。た。れ。ど。樊。噲。も。亦。嚮。の。日。放。言。の。罪。に。依。り。て。既。に。誅。せ。ら。る。と。蕭。何。の。助。死。を。免。し。辛。に。命。を。拾。ひ。身。を。法。と。怕。れ。て。救。ひ。ぬ。と。訣。お。由。り。と。或。人。と。忍。み。我。殷蓋。を。救。ふ。と。走。て。漢。王。に。報。し。れば。漢。王。は。う。ち。教。馬。を。急。に。相。困。蕭。何。を。召。て。詔。あり。ける。韓。信。未。師。を。も。出。さ。る。朕。が。一。人。の。大。將。を。容。易。に。斬。ら。恐。ろ。く。軍。に。於。て。利。無。し。

卿これを如何せんや。蕭何は答申けり。先づ韓信が壇上より大王に奏せし如く。軍の中よりして御べぐらひと。乃ち今日の事ふるん。國外軍中。是元帥の職分なり。君と雖萬端。詞と容とのまうさる程。權と重うせざる時。二軍へ治らむ。宜うさる。元帥が。一箇の豹より。百万の身命と司る。ことば。今一名の將と惜と。大切なる法令と。争う破ることをせん。故に孫子の語も。君命受ざる所あり。斯様の時。此事をいふ。亦る。君の尊命あり。と。殷蓋を扶て。向後も。大将の法令行む。三軍の乱れと。するもの。も。勅許進退。至るまで。背く者。尋らむ。何を以て。敵を勝ん。是君と亡との本あり。其罪も亦元帥の身。不忠の名。得る。至れば。韓信が。殷蓋と斬て。法を正と。味方の軍勢。法を守り。危に臨と。敵を恐む。死地へ入て。生と得る。乃ち兵法の秘奥なり。大王必を

小信をりて。法を乱し。ゆと。漢王も。宣く。殷蓋は。本より。寡人。親き者。ある。罪と責む。重く。たとも。豈殺すと。死理ありや。卿これと思へ。蕭何又曰。臣聞王法。親無し。と。古人の明訓。ふゆ。大王天下を治る。親疎の分。と。為。公平の道。漢王は。宣へ。蕭何敢て。肯り。時刻も。漸く。殺り。殷蓋の。斬と。恐れて。俄に。鄭生と。召寄せ。汝早く。馬を飛。朕が。手詔を。携へて。韓信が。陣小往き。殷蓋が。命を。救ひ。來れ。と。宜。鄭生。開。馬。飛。乘。鞭。鳴。馳。程。速。韓信が。捕。教。場。の。轅。門。近。づ。武。士。們。已。殷。蓋。と。斬。其。容。態。と。見。大。音。揚。呼。漢。王。詔。あり。殷。蓋。と。斬。と。免。暫。く。侯。と。周。章。驤。だ。つ。轅。門。馳。入。本。陣。と。轅。門。の。番。士。引。戻。元。帥。命。あり。

軍中ふ馬を馳せざるを免さざる。慮外をせざる。鄴生を馬より下し。元帥の帳前ふ曳立直りて。鄴大人馬を飛し。法令を犯して門不入る。某輩これを咎め捕へりて。其罪状を悉く。韓信へあれと。聞軍中不許馳驟而入。是奸人の營陣を劫きと恐るる。鄴大人は平生より兵法をよく知る。如何るべし。今法を犯して。斯る所業を爲めざる。想ふに主上の勅命を傳来れるの事。云ふ。韓門の番士傍より。鄴大人は君王の勅書と齎り來り。と。韓信へ急死軍政司を呼て問ふ。軍中火馳る事と。許さる法令ありき。今鄴食其れを犯す。何の法を以て正さる。曹參曰。軍門ふ馳驟する者。これを輕軍と定む。その罪斬ふ當りと。軍政司の這一言。鄴生は且後死且嘆と曰ける。余軍吏の學びしれども。其兵法の嚴ると。未如斯を見む。実

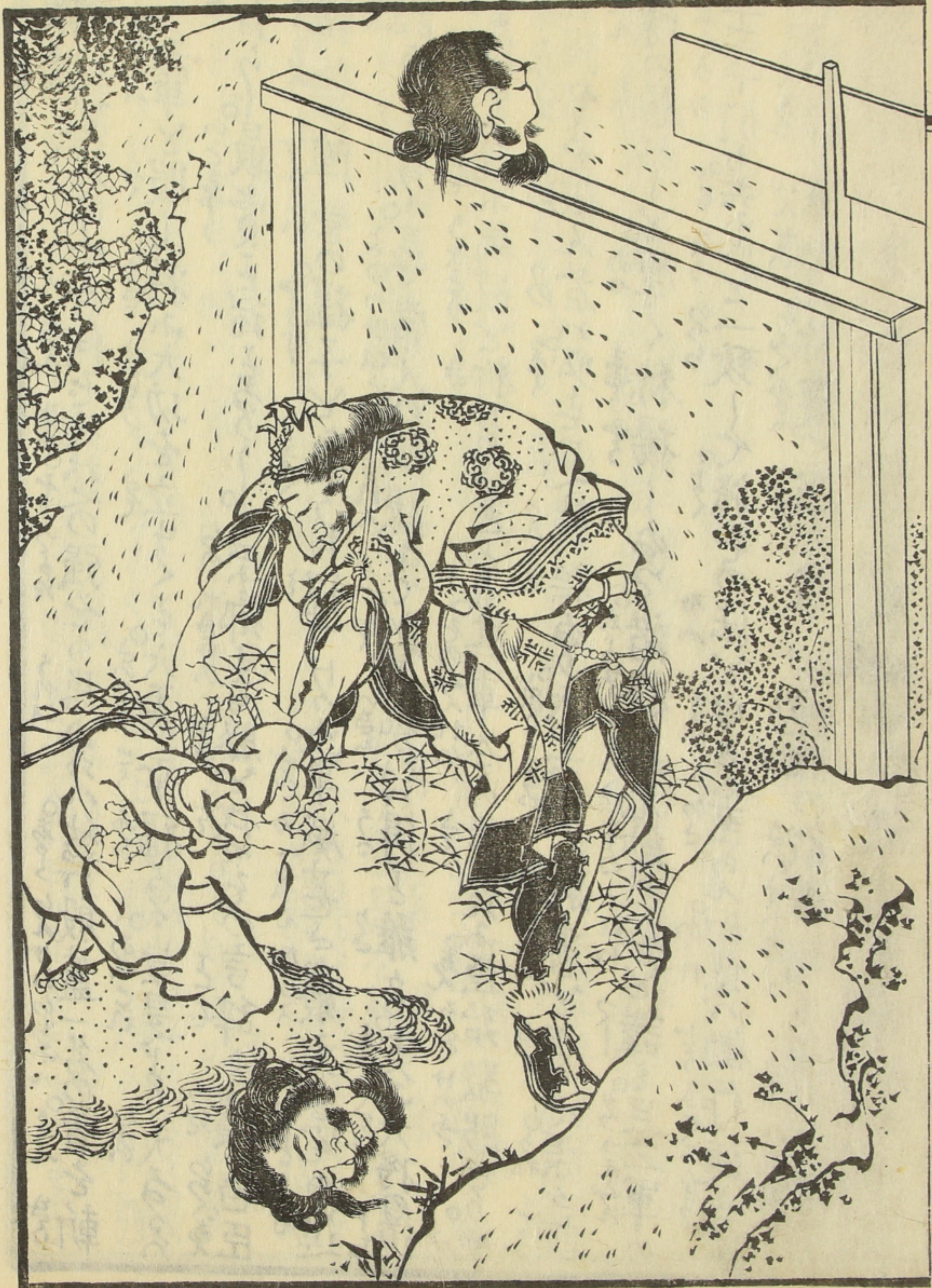
名將の法令。嗚呼隆る哉。切ふ感稱。爲されども。我身ふ懸る法令。如何せむ。と。只管ふ獨心と痛りける。良有て韓信曰ける。鄴大人の罪誠ふこれ斬ふ當ると。雖今勅詔を捧し。身ふ其罪と弛して。從者の首と斬べし。鄴生は馬取と捕へ門外へ引出さる。殷蓋と共ふ誅殺。其首を陣門の鼻以て。三軍ふ徇ければ。是と見つ。聞つ。その貴賤上下の差別ある。皆悉く震怖。一人とて。高声ふ言者。と。も。三軍只敢軍を静り。最る嚴密。を見え。鄴生は幸ひ不死。免れ。急が。逃。反。て漢王の御前。至り。頓首して。奏聞する。臣勅書と齎りて。韓信が陣ふ參り。小殷蓋將ふ斬せんと。始危き折らる。三軍。急死。て陣中。を誤て馬を馳せ。乘入る。その罪。因りて。軍令と曹參。正さ。臣ども。已ふ斬んと。せ。臣は。是大王の勅使。る。僅ふ赦され。其更

かくて馬取の首を斬りて殷蓋が首級と同然軍門に掛さる。臣若勅書非
 ざるを決して生るを得。とて漢王色と喪。大に怒りて宣ひらる。朕
 勅書遣して殷蓋が死を留る。韓信如何軍令と止せ。とて申
 せ。君命と受ざる。最無礼なり。免難。と憤声のよ。蕭何
 推林示。進を倚て申ける。先中已奏せ。とて。將在外君命有所
 不受。これ正。不。圖外の権。大將の道。あり。強て韓信が君命。敢
 茂。非る。漢王又宜く殷蓋が罪小る。是を斬る。何。由。を
 蕭何。合。て。奏。さ。る。是。も。亦。嚮。奏。し。て。これ。所。謂。殺。戮。權。貴。以。威。衆
 心のあり。然。よ。る。時。の。三。軍。只。躬。方。主。將。の。あ。る。を。の。知。り。て。外。敵。國。の
 あり。と。知。ぶ。夫。兵。法。の。言。さ。む。や。内。懼。王。將。者。必。勝。外。懼。強
 敵者必危。と。れ。則。ち。韓信が。此。回。の。軍。法。の。眼。目。を。と。や。大。王。と。て。

韓信と得。あ。上。へ。何。を。又。楚。之。強。を。の。患。め。ん。然。び。殷。蓋。一。名。の。首。を。斬
 て。三。軍。を。服。し。將。の。大。功。を。立。ま。す。と。大。王。の。幸。福。多。し。豈。是。より。大。る。ん
 有。り。最。賞。を。と。死。と。り。と。云。ふ。鄭。生。も。膝。を。扱。め。その。言。辭。を。續。て。曰。臣
 韓信が陣營の様子と孰。う。ち。視。て。ける。軍。威。甚。だ。嚴。密。で。高。宅。由。違
 乱。ある。と。尋。常。人。の。調。練。と。彫。る。勢。ひ。得。と。難。く。実。は。大。將。の。道
 を。得。り。既。し。馬。取。と。斬。れ。る。と。も。其。軍。令。の。正。し。さ。臣。殆。敬。服。せ。り。他
 日。強。楚。を。破。ん。者。必。は。是。韓。信。な。り。大。王。早。く。勅。書。を。下。し。て。追。う。が。調
 練。の。届。せ。し。と。厚。く。称。揚。し。め。諸。將。益。元。帥。の。令。と。謹。む。且。三。軍。の
 士卒。們。も。共。心。と。一。致。し。て。能。其。法。と。守。る。不。至。らん。如。是。の。勳。作。隨。意。不
 て。韓。信。が。軍。勢。に。弥。震。て。強。く。は。べ。し。と。理。非。の。裁。断。明。る。蕭。何。鄼。食
 其。二。位。の。言。と。漢。王。実。も。と。悟。り。て。喜。欣。ふ。と。限。り。も。な。く。即。近。臣。周。元。臣



子



酒と羊と有し。勅書と捧けて韓信が陣屋まで至りし。韓信はこれに
豫め且韓信が告げし。韓信左右の令を下し。陣屋の掃除懇懇盛
砂に至るまで心と配て尊敬の意を表して。大小の將士と共に香を焼く。勅
使と迎へて中軍の上座を請ふ。金鼓を鳴らし。三軍を静
め。勅書を用ひて高声に讀上るその詞は曰
為將之道職專闕外非法不足以制三軍非明不
足以服人心故孫武殺吳姬而法遂行者非不
知吳姬為王之所愛也然法不私於愛故其法乃
行耳大將韓信殺殷蓋者非不知蓋為寡人之所
親也然法不私於親故誅一人而千萬人知敬其
用法實合孫武探得為將之道朕心喜悅故遣近

臣周元臣賚羊酒手勅以勉之益勸初心以約束
將士早發東征以慰所望故勅

大元帥韓信聞了りて再汗して賜を受け且喜し且感し。復る勅使の
先を立て中軍を出て轅門の傍まで送りける。信而次の日朝し天子に
見え奉りて自ら洪恩の辱を許謝を登時漢王宣ふや。朕將軍の軍
令を聽ふ誠より心合へり。豈これを賞せざるや。卿も努力よ。韓
信返りて曰く。臣既闕外の職を辱うあるは三軍の士卒の命。臣
が身も拘り。死地に陥入るは深くも恥る所なり。若し調練法を
何を以て正さ一人法を私すれば萬人皆乖くに至る。且陛下内あり
て闕外を指揮するは。臣元帥の任を尽さんと能く孤如何なり。智と震
い時不望して計を施し。敵を制する術ありとも。士卒手足の働るは奈何

八

あてり勝を得死昨日勅使を賜りて酒と羊と添ぬる其君恩の厚きを
見く諸の大將士卒皆教して臣が法の重きを始て信む然ハ大王の臣ハ
於るやその徳の高き山より高くその恩の深き海より深く縦令骨と粉の
如く身と碎さても報ふ不足ハ勉て力と尽さずとも再洋々を退死ける。

第四十一回 樊噲入蜀修補棧道

不可勝在已可勝在敵と云ハ孫武が説く軍形の語也敵の形と見
る死ハ先已より形と見せねハ敵の形を見ること能くハ敵の形と見定めね
ハ必勝の計と云ハ難く先敵を知り己と知ると而後必勝是を兵家の
秘奥なるべし然る程ハ大元帥韓信ハ朝ハ少く漢王ハ見え自ら恩と洋
謝して人臣の礼を尽し退りて本陣ハ立及び樊噲を召て申けるハ
足下既ハ先鋒の重職ハ撰りて今三軍よく熟く是ハ近ハ王の脚

駕を促し日を擇とて打立んと云然もこの彼蜀郡の棧道の嚮昔ハ張
良ハ燒尽し一因りて是も修覆せられ兵と出ると難り足下の漢家柱
石の臣殊ハ勝りて丈夫なれば這大任と命さる乃ち一萬人の役夫を率
て周勃陳武等と力と合せて一月の内ハ修補する怠る所なく成就せりや
若期日小至りても成らん軍陣ハ建置る法令あり是を以て罪と正さん
期ハ我自ら元帥たる威を張てり命今と次ハ小なる事あり漢
家の鴻基を速ハ建んが為る忠節也唯元帥の職ハ負いと斯法令
を嚴重く立士卒を以て我手足の心ハ従ふて勤くが如くさあむが為
兵法あり能心得く過失なく速く功業を果されよとられて樊噲眉
頻りて要妻時沈吟とて申けるハ元帥の命素より重し其れを背くハ有
ねと棧道ハこれ天下の險阻且三百里ハ餘り如何とて一月の内ハ是

を修補しゆほすることをゆるえんに元帥げんすいのひと某あると殺ころさんとその支しをと今いま這この所ところで殺ころ
 ぬまぬまのま難題なんたいをくくく争まをうまうま肯うけつまべま某決あるしてこの此命こののま後あひ小この從あつひま
 小この思おもひまんでこの答こたえまをこの韓信かんしん笑わらてこの又曰またいわまうま事この小この臨りんてこの難なんとこの避さくるこの是この忠臣ちゆうしん
 の為このとこの足下あそ本末ほんまつ忠義ちゆうぎをこの宗そうとこの宜よろくこの力ちからとこの此所この小この尽つくしてこの全まごくこの大功たいこう
 成就じゆうじゆうの後のち三軍さんぐんをこの馳ちてこの進まむこのべましこの必辭かならずとこのとこの韓信かんしん更また小この免あはれこの祿ろくをこの
 樊噲はんがのこの最當さいたう感かんしこの此上この強ちやうくこの辭退しじたいせこの六法ろくぽう令のちをこの亦またくこの恐おそとこの然しかりこのとこの
 勇武ゆうぶの大丈たいしやう夫とももこの威氣いけい衰おとろふこのてこの見みえこのけこのるこの姑且こゝろありこのてこの漸しやん小こののこの音ねとこの性じやうのこの流石りうせき
 形かたちをこのもこの敵てきの形かたちをこの知しるこの所ところもこの亦また克よくしこのとこの定ますこの小この謀まうのこの密ひそかこのりこの然しからこの尊たうとふこの微びるこのもこの妙まうなるこのかこのるこの元帥げんすい我われ不ず這この難事なんじをこの令いらこのるとこの左ひだりもこのあこのるこの嗟あは平へい

好々よよくとこの自みづからこの論ろんしこの胡意こい止とどまこのるこの面めん色しきをこの直ただふこのるこの難がたきこの業わざをこの元もと
 帥すいの大命たいめい推辭すいしおこの由よしりこの心こゝろをこのしこのむこのらこのしこのとこの恥はぢてこの歸かへるこの坐まをこの退ひきこの速すみ小この
 軍裝ぐんさうをこの調しらへこの棧道せんどうをこの打うちたこのけこのるこの別緒べつしよ而この說いわしこの韓信かんしんのこの馬うまの調練しら既すでにこの
 熟じやくくこの主將しゆうしやうの隨ま意いあるこのとこの智ちくこの旗はたをこの以もつてこの士卒しそくとこの使つかふこの士卒しそくの旗はた小この眼め
 を付つけこのてこの此こゝを守まもりこの周旋しゆうせんとこの実まこと小この北辰ぼくへんの其その所ところ小この居いるこの衆星しゆうせいの之これ小この向むかふこの
 どく指さし指さし麻毛まぼ小この從あつむこのとこの左ひだり小この麻まけこの右みぎ小この廻まわりこの右みぎ小この麻まけこの右みぎ小この小この姓せい前まへ小この
 魔まけこの小この前まへ小この進まりこの後のち小この魔まけこの小この後のち退ひきこの前軍ぜんぐん中軍ちゆうぐん後軍こうぐんもこの旗はたをこの以もつてこの目め
 と為なりこのければこの三軍さんぐんをこの合あはこのせてこの一陣いちじんとこの又また分わつこのてこの四陣しじんとこの又また分わつこのてこの千せん萬まんと為なりこの
 とこの自在じざいあるこのもこのとこの四陣しじん小この分わつこのてこの四門しもんとこの四陣しじんをこの合あはこのせてこの一陣いちじんと
 為なりこの即すなはちこの長蛇ちやうだとこの是これをこの疊かさめこの魚鱗ぎょりんとこの是これをこの用もちひこの鶴翼かくよくとこのりこの
 斜あな小この行ゆはこの雁行がんかうとこの圓まるくこの備そなへこのてこの圓月げんげつの陣形じんけいを象あやはこのるこの神變しんぺんもこの只ただこれの旗はた
 小この行ゆはこの雁行がんかうとこの圓まるくこの備そなへこのてこの圓月げんげつの陣形じんけいを象あやはこのるこの神變しんぺんもこの只ただこれの旗はた

繪本漢書軍談三韓卷之五

文選堂藏

の業中て規矩准繩毫釐不違鼓を打て士卒を進め金と鳴して士卒と退け千萬人の進退も唯一人の手取りて引廻り尚易く進退有法啓閉有道旗幟明ゆて金鼓誤らね見る人飲服せざるは。斯やければ韓信の又朝ふ出て奏聞する者。臣勅を兼せて人馬を訓練せし隨ふ既ふ完く熟しぬる今日陛下御駕を促し願ふ一覽賜ふべし。請ふ漢王宜ふや。朕曩昔も見て將軍の訓練の精きを能知れ。又完く熟すとあれ猶克法ふ合ひつべし。朕何を再び之を見らふ及んやとて駕を促さるる氣色みけは蕭相國找と出て曰く今元帥奏聞して人馬の完く熟せしと觀覽ふ入れまらんと請ふ大王これを覽せざるは元帥が是道の分と慰まら御心の薄きふ似つべし且亦従ふ將士も大王の此一舉也。上が上も忠節の心を愈厚くまされれば必も御駕を廻しぬべし。

て速く觀覽と遂りえし。元帥兵を用ゆる能律令の備まるも明ら知りぬ。大王心を安んじて征伐少くも疑氣ならん去来させぬと促さる。漢王有理と肯ひぬる韓信の片辭して退る程の時を殺さむ漢王乃ち百官を左右率て教軍の陣屋に至り来。韓信の中軍と出文武の諸將と誘ひて遠く找とて迎へ詰せ。漢王直に將臺を登りて四方を雋と見せし。諸陣の兵馬隊伍の形装堂々とて能備り旌旗矛楯嚴然と前後左右威く整々として錯乱る。起坐進退繩然と法令より行ひし。ければ漢王大は不感し。韓信の宣ふや。將軍の兵を用ると。子の孫武。吳起と父とも如何で之を過げん。黃帝の法呂尚の略兩るる備り。兵馬既ふ斯の如くんば何れの日より師を出して東に向ふて征さむ。韓信答て曰とや。凡兵を出さず必も天の時を待し孤虚旺相も亦これ兵家の。

廢る所非也。只その宜死時心とて。君王の御駕を促し師を出して楚城
 伐らん。今豫め定めんと。最る難きことと申すと。申すと。漢王うらめて速
 其心を悟て再度日限と。回玉つて。躬て將基より下りて。六近臣膳と。薦
 たる漢王あまじと見ぬ。山海の珍味を列ければ。只数品を止めりて
 餘は皆漢信の分ち賜ひ諸軍と賞して。朝ふ夜で。出師の日を待たひける
 再説先鋒樊噲。已ふ二万の人士を率ひて。棧道修補ふ。赴ける。山路
 甚險阻ありて。岩石天の連。樹本因る。枝と交て。飛鳥も翔ると。恐
 下臨。千尋の谿。烟霧濛々として。見も分む。走獸も入ると。能りて
 自之下を死。慌る。げれ。心中思ふ。韓信が。期る所。の修補を。我命
 せし敵の形を。為さむ。死。為ると。可思ひける。今。這。險阻を。見。時。僅一
 万の。人。夫。也。三百里。餘の。棧道と。維。今。三年と。経ると。も。修補。する。と。死

得んや。定めて。是。韓信が。楚を。征する。の術。を。て。只。徒。月。日。を。延。其。為。る
 飲。但。又。險。阻。期。の。如。之。を。知。て。実。は。這。處。を。修。補。して。師。を。通。さん。心
 る。と。疑。念。の。起。り。と。徒。に。捨。置。く。事。の。能。ら。ね。ば。先。周。勃。陳。武。等。と。共。し
 孤。雲。山。上。に。て。見。巨。と。一。帯。の。棧。道。崎。嶇。と。して。高。低。縱。横。最。險
 人。跡。至。る。と。容。易。く。な。ら。ず。相。顧。て。申。さ。す。這。棧。道。を。修。補。せん。や
 十。万。の。人。數。を。以。て。一。年。と。限。る。と。い。ふ。と。完。ふ。と。い。ふ。難。く。は。一。萬
 の。人。使。を。以。て。安。を。よ。く。一。月。の。内。に。成。就。さ。る。と。い。ふ。と。事。成。さ。る。と。知
 る。と。勞。して。功。る。事。と。せん。より。人。數。を。増。さ。ら。ず。然。ら。ば。止。る。不。如。と。い
 の。と。又。せん。様。も。る。り。が。樊。噲。思。ひ。直。して。云。さ。す。韓。將。軍。の。軍。令。の。最。嚴
 重。る。其。上。大。王。深。く。重。ん。ど。我。輩。若。軍。令。不。違。ら。ば。必。ず。軍。法。を
 正。さ。る。べし。成。と。不。成。と。の。界。を。彼。定。め。て。主。張。あ。ら。ん。空。く。過。ぎ。軍。令。

負くの罪を受んより。如ト事と勉一上めて再ハ人夫を請んふとて。馳て
 修補のふと。啓死令と加て。急る。高死処ハ木と。斬り上と平。低さ
 校を掛溢死処ハ石と。穿せ息をも。継せと。精力と。励。霎時ハ猶豫る
 下。諸人皆口々ハ張良。此棧道を。安ふ。焼しハ最ハ拙計ト。と
 罵りまがら。只韓信ハ法令の殊ハ。嚴死を畏懼して。日夜力と。尽と。程
 木ハ打と。石ハ當りて。足を傷る者。多く。壯る者ハ。疲と。苦と。老た
 る者ハ。悲と。哭。見ると。心ハ。容態。強て。役せん。多く。心。苦
 思へ。之を厭ふて。役ハ。猶さ。修補。成ると。流石ハ。勇武の。樊噲。の
 力及。と。厭ね。果如何せん。と。患。大。中。大夫。陸賈。と。元帥。元帥。令
 と。受けて。十騎。馳。威。猛。声。示。と。曰。大。將。軍。令
 あり。軍馬。を。出。と。遠。棧道。修補。の。事。曩。昔。ハ。附。属。せ。

一。如。一。月。の。限。を。違。へ。く。其。約。束。と。守。ら。ぬ。軍馬。の。此。処。到。る
 時。若。滞。る。と。わ。か。し。と。軍。法。ハ。行。へ。樊。大。人。ハ。兼。役。の。則。ち。司。ある
 る。を。功。あり。必。と。賞。あり。功。あり。必。と。罰。あり。此。説。如何。と。時。も
 敢。て。樊。噲。大。叫。曰。卿。知。や。此。地。方。ハ。尋。常。の。險。阻。ハ。異
 之。如。之。棧。道。ハ。行。程。三。百。餘。里。及。び。是。を。如何。を。一。万。の。人。使。と。以
 一。月。の。間。ハ。完。功。と。為。と。ん。大。夫。願。わ。我。為。或。ハ。日。限。と。延。る。も。
 感。人。夫。と。加。と。も。兩。事。ハ。一。事。と。元。帥。ハ。請。ふ。是。の。責。と。知。せ。よ
 と。尚。も。辞。を。費。し。免。て。も。角。て。此。仗。中。ハ。力。の。及。び。難。死。と。種。々
 哭。け。れ。も。陸。賈。ハ。更。ハ。肯。面。色。を。在。り。け。る。が。傍。ハ。人。多。し。時。を。伺
 以。密。ハ。韓。信。ガ。計。畧。の。事。の。意。と。耳。語。告。る。と。多。く。樊。噲。ハ。昔。日。我。思
 ひ。更。と。合。せ。由。多。心。中。ハ。大。ハ。喜。び。胡。意。外。ハ。出。て。大。音。揚。は。棧。道。甚

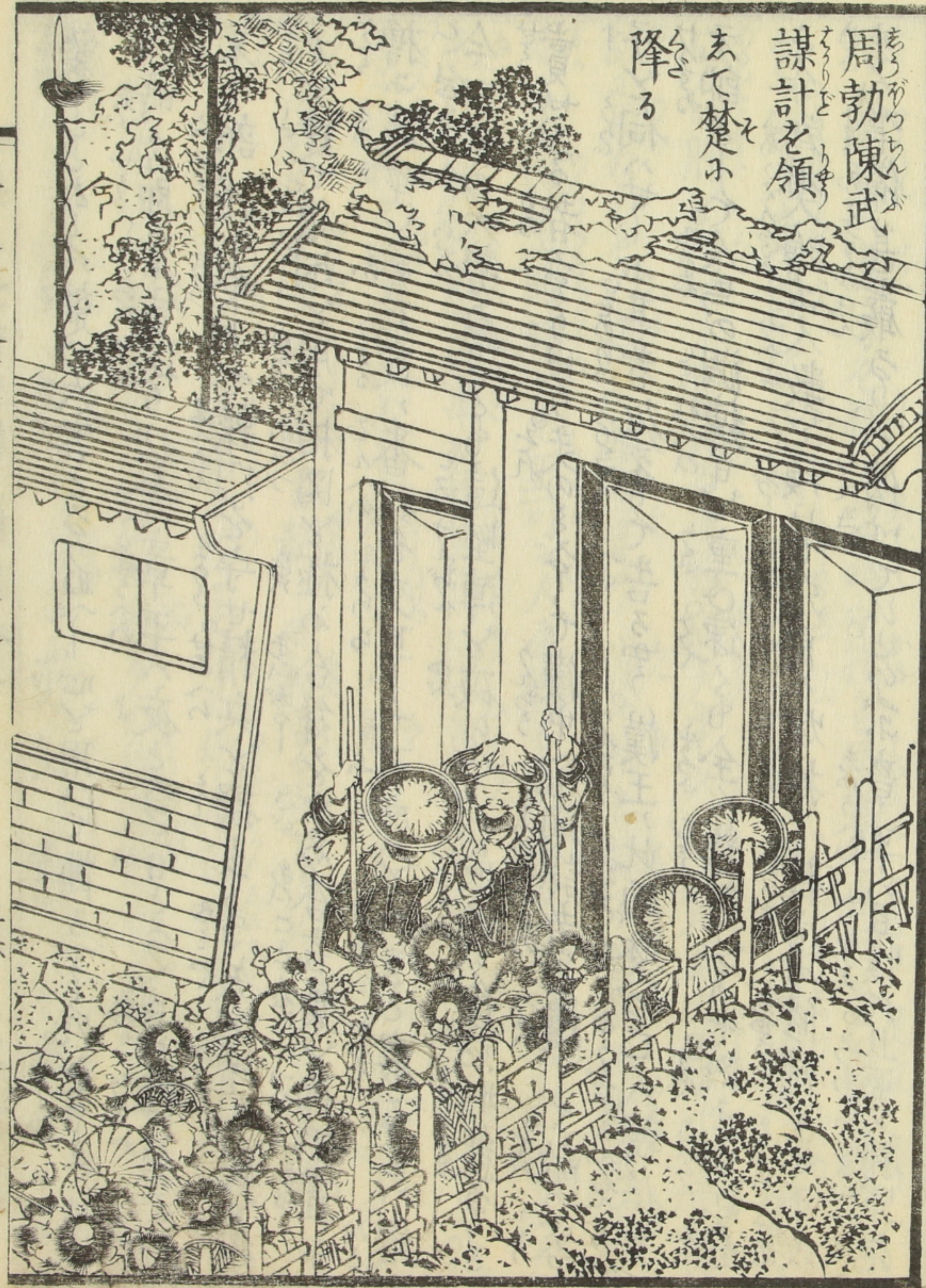
險阻けんそゆへに勢せいが弱じやくき一月いちがつも完かんせんとな難なし。因よりて今いま漢王かんわうより。息いき
 問もんありし幸さいひ小我せうがより奏そうし人夫じんぷを増まし。力ちからを裁あせ修補しゆほせん咸かん
 安堵あんたふよと喚よびりて衆人しゆじんの心こころと易やすんとし。陸賈りくがも亦また別わかれし臨のぞみ。諸人しよじんの
 前まへを明あきらまらば。大將軍だいせんじんの号ごう令れいの旨さだめて。僉人けんじんの知しる如ごとく。極きくめて歳としを
 事ことる事こと必かならず。彼期日かきじつも誤あやまりの事ことも。若し違ちがふ事ことも。あつて。若し違ちがふ事ことも。あつて。若し違ちがふ事ことも。
 功こうと建たて。大王だいわうの賞しょうを受うる如ごとく。勉つとめや努つとめ。と喻たとへ。樊噲はんがら。點頭てんとう然ぜん
 我われ早く漢王かんわう人夫じんぷと請こふて修造しゆぞうを急いそぐ。とて立地たちぢの郵驛ゆうえきを馳はりて表書ひょうしよ
 獻けんむ。其詞そのことば曰いふ。
 棧道せんどう工程こうてい甚ただ。人夫じんぷ死者しよじや甚ただ。今いま奉ほう三元帥さんげんしゆ將令しやうれい限げん
 一月いちがつ之間のあいだ。飛報ひほう完かん工こう。如ごとく違ちが原限げんげん。定さだめ。以もつ軍法ぐんぽう。従したが事こと。但たゞ

念ねん臣しん起おこし。自より豐沛ほうばい。妹い敢あ誤事ごじ。今いま計けい棧道せんどう工こう。豈あ可べ計けい日じつ
 而しか完かん事こと在ある。迫急はくきやく。性命せいめい難保なんぽ。伏望ふくぼう陛下てんか。下くだ差人さしじん。附つ近郡きんぐん
 縣けん量りやう撥人はくじん夫ふ或ある一いつ二に千せん名な。償工しょうこう修完しゆかん。以もつ救燎眉きうりやうみ。臣しん
 等ら不勝ふしょう恐懼くわうぐい。感戴かんたい之の至いた。茲こゝ差牙將さしがしやう李隆りりゆう。齎表しゆひょう上あ奏そう
 以もつ聞き。

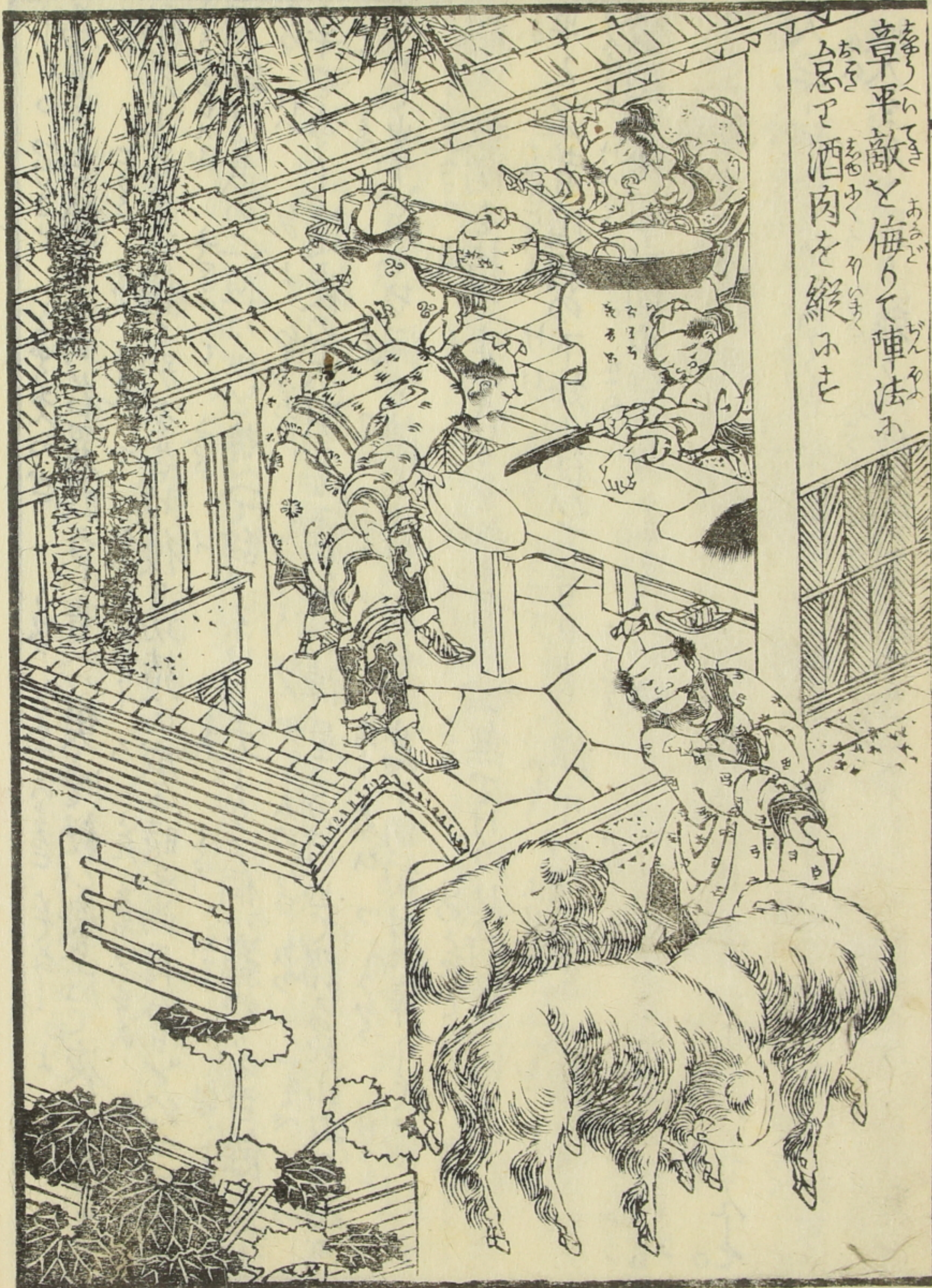
漢王かんわう表ひょうと見み了し。やそ急いそぎ御史周苛うししやうしゆこを。普安郡ふあんぐん遣つりて。一いつ千せん人の役夫やくふを
 催促さうそし。樊噲はんがが方かたへ送おくりし。樊噲はんがの六むきふ喜よろこび五十人ごじゅうにんを一隊いつたいとし。て
 配はいを定め。日ひ夜よ力ちからを勵あま。彼棧道かせんどうと造つくらせける。已すでに前まへを
 小云せうぐん。三百里さんぱくり餘あの峻險しゆんけんる。中な々なふりて修造しゆぞうの何日果なんじつへきとも見みえさ
 だけの。恁おて樊噲はんが。或ある夜よ竊あふ。周勃陳武しゆはくちんぶの兩個ふたごを招まり。耳語みみごて言いはさる。其その謀ま
 入い密ひそる。と尊たうと。今いま宵よ二位にと召より。便たり餘あの淺ある。非あらず。此項こゝ陸賈りくがの

未^きて表^への枝道^{せだう}を修^{しゆ}補^ほの事^{こと}と促^まさ^が為^なりて^おせ^りて^の體^{てい}を^しと^し其^{その}内^{うち}實^{じつ}然^{じつじ}に^も知^しら^ず今^{いま}敵^{てき}の形^{かたち}と見^みら^れば^も枝道^{せだう}の心^{こころ}と付^つけ^て外^{とち}を^たは^さり^て只^{ただ}謀^{ぼう}計^{けい}あり^しとも知^しら^ず未^い実^{じつ}否^{いな}と分^{わか}ら^ずは^なは^らは^し能^よく^も探^たん^が為^なり^し今^{いま}回^{くわい}者^{しや}を^し入^いる^に敵^{てき}中^{ちゆう}と伺^{うかが}ひ^て謀^{ぼう}計^{けい}と具^{そな}へ^て我^{われ}に^まは^らせ^り置^おき^し夫^{その}散^{さん}関^{かん}の蜀^{しやく}郡^{ぐん}より^も師^しを^し出^いす^に要^{よう}路^ろを^し得^える^に所^{ところ}あり^し此地^{このち}を^し已^やむ^に方^{かた}を^し取^とり^て入^いる^に秦^{しん}へ^も取^とり^て最^{さい}輒^{りやく}且^{かつ}其^{その}地^ち形^{かたち}如何^{いかん}と^も二^に邊^{へん}山^{さん}險^{けん}岨^{しよ}を^し往^{むか}ふ^に末^{すえ}の路^ろ甚^た狭^{せう}大^{たい}軍^{ぐん}と^も攻^せむと^も是^{こゝ}も^も一^{いつ}度^{たび}は^な當^{あた}り^し難^{がた}是^{こゝ}を^し司^し馬^ば法^{ぽう}に^また^り阨^{やく}地^ちと^も云^いふ^に孫^{そん}子^しの^も圍^ゐ地^ちと^も云^いふ^に人^{ひと}這^こゆ^に守^{まも}る^に時^{とき}は^な万^{まん}夫^ふを^し御^おと^り故^{ゆゑ}に^も敵^{てき}軍^{ぐん}の^も險^{けん}岨^{しよ}と^も若^{ごと}く^も固^こめ^らる^に時^{とき}如何^{いかん}心^{こころ}疾^{はや}ると^も蜀^{しやく}より^も出^いる^に能^よく^も竊^{せう}に^も聞^きこ^へる^に楚^その^も將^{しやう}章^{しやう}平^{へい}散^{さん}関^{かん}を^し固^こめ^りの^も章^{しやう}平^{へい}の^も驕^{きやう}慢^{まん}を^し人^{ひと}を^し侮^あげ^り強^{きやう}悍^{へん}を^し沈^{しん}勇^{ゆう}に^も使^しけ^りば^も間^{かん}諜^{てい}と^もを^し易^{やす}く^も入^いる^に二^に公^{こう}這^こゆ^に淺^{せん}を^し心^{こころ}に^も彼^かの^も密^{みつ}策^{さく}と^も行^ゆく^に能^よく

為^なす^に告^こ諭^{よん}を^し不^ふ両^{りやう}名^{めい}異^い淺^{せん}と^も肯^{けん}へ^も檠^{けい}噲^{たい}欽^{きん}の^も饜^{やう}應^{おう}て^も夜^やの^も更^{せい}る^にま^で酌^{しやく}を^し五^ご更^{せい}の^も鐘^{しゆん}を^し別^{べつ}を^し告^こげ^り後^{のち}日^{にち}功^{こう}績^{せき}の^も成^なる^に時^{とき}は^な尚^{なほ}再^{さい}會^{かい}と^もい^はる^に周^{しゆう}勃^{はく}陳^{ちん}武^ぶの^も二^に位^ゐを^し携^{せう}へ^て辞^じを^しし^り夫^{その}より^も二^に個^この^も竊^{せう}を^し百^{ひやく}餘^よ人^{にん}の^も士^し卒^{そつ}を^し令^しじ^し這^こゆ^に夜^やの^も未^い明^{めい}なる^に枝道^{せだう}の^も陣^{じん}屋^{やく}を^し忍^{しの}び^し出^いて^も路^ろを^し山^{さん}辺^{へん}の^も路^ろを^し求^{もと}め^りて^も峯^{かみ}と^も攀^{はん}ぢ^ぢ洞^{どう}を^し渡^{わた}り^て葛^{くわ}を^し取^とり^て付^つけ^り葡萄^{ぶた}を^し付^つけ^り卒^{そつ}下^げて^も險^{けん}岨^{しよ}を^し越^こえ^り散^{さん}関^{かん}を^し指^さして^も走^{そう}り^てを^し知^しる^に者^{もの}更^{さら}に^も無^なし^り此^{この}時^{とき}楚^そ國^{こく}の^も大^{たい}將^{しやう}章^{しやう}平^{へい}と^もい^はる^に項^{かう}羽^うの^も下^げ知^ちを^し従^{したが}ひ^て昔^{むかし}日^{にち}より^も漢^{かん}中^{ちゆう}の^も防^{ぼう}禦^よ人^{にん}數^{かず}と^も率^{しつ}して^も散^{さん}関^{かん}の^も險^{けん}岨^{しよ}を^し固^こめ^り守^{まも}り^て彭^{へい}城^{じやう}より^も郵^{ゆう}傳^{でん}を^し來^きり^て亞^あ父^ふ泥^{でい}増^{ぞう}との^も檄^{げき}文^{ぶん}を^し送^{おく}り^て與^あら^はし^め今^{いま}を^し令^しま^り漢^{かん}王^{わう}劉^{りゆう}邦^{ぱう}の^も尋^{じん}常^{じやう}の^も小^{せう}安^{あん}と^も甘^{かん}と^も人^{ひと}の^も下^げ風^{ふう}を^し立^たて^り今^{いま}関^{かん}中^{ちゆう}の^も虚^{きよ}なる^に乘^{せり}り^て急^{いそ}に^も師^しを^し催^もひ^て攻^せ入^いる^に死^しも^も圖^ずり^し難^{がた}散^{さん}関^{かん}の^も蜀^{しやく}地^ちの^も出^い口^{くち}を^し是^{こゝ}を^し第^{だい}一^{いつ}の^も守^{まも}り^て若^{ごと}く



周勃陳武
謀計を領
去て楚小
降る



章平敵と侮りて陣法小
怠り酒肉を縱ふ也

繪本漢楚軍談二卷之五

文政堂藏

驚多しとあつて楚の大害とるるぬべし心を用ひて懈るべし警言よや慎よ
 時々即々言送りけむ章平の夜とるる日とるる自ら陣屋を巡
 見し部将ふ命とて轅門を守せ精兵と撰て弓矢と増し楯と組
 矛と建て狼烟と用て相圖と極め合符を定め合言葉と作て置る
 櫓と遠望と置り夜に番兵を交互して不虞と戒ること嚴るるに縦
 今百万の大勢ありとも這堅陣と破らんこの最難うは死形態ありと
 賞せざる者ありけり夫のさるる漢中へも間諜者を遣して敵の容
 子と伺はせし其者友ありて告るる漢王の此頃楚の亡人韓信と天
 元帥として人馬の調練日と重く速くも全く熟せしめて既し三軍と起
 さんが為樊噲ふ人数と預けて張良が焼捨し棧道の修補と始り攻
 事の準備甚嚴るると傳つてはとふ章平は且懐れ且亞父將軍范

増し先見の違ふるを感し而時措む早馬を立頓し三秦を報つけ
 る雍王章邯ありて聞嘲笑て曰りや韓信の淮陰の漁場を
 或人の勝と潜り世此る臆病夫とて久しく楚國の田やが才を
 故に用わらむ因りて楚を走りて漢に歸す其不肖何を用る足ん
 なるを漢王眼暗く正可人を鑑るとは是を伴して元戎と
 倣しけしん什麼何事を且韓信の貪賤を固り人望の係らざれば
 一旦大将と成し自ら入心決して服せしる人心已も服せしむ
 何を以て之軍の士卒を制して和するると得んや和せざる士卒は
 使といふとも萬事も自由をゆるとなく縦令韓信才ありて号令は
 下はとありとも誰うこれに従んや敗るの兆頭然らば且棧道の天下に
 險岨三百餘里も連する曩もこれを張良が尽く焼捨れば漢家

繪本漢楚軍談二轉卷之五

七

文彦堂藏

の衆人貴賤老少。數と竭一精力と戮一て。修補一年を経るとても。いづれ完ふまるとも。ゆるん如此の難事を知ると。今大兵を用ひんとする。怡も小兒の戯れに似て。笑ふ絶する事有りか。と。傍若無人ふ云。故つと諸大将の中。あても実不然も。そと。つも。あり。又心ある人々。獨范増が檄文。り。防禦の備を。敬言ゆふと。章平云。送。り。と。危む者も有けり。一而輩。雍王。不遇て。い。や。范。亞。父。の。林。之。元。帥。智。深。衆。小。抽。ん。で。未。然。ども。知る。老。練。る。る。ふ。その。人。屢。檄。文。を。馳。々。を。用。ふ。を。戒。ん。や。且。今。又。散。関。る。る。章。平。より。も。飛。札。を。り。て。漢。兵。の。未。ら。ん。由。を。報。さ。び。先。豫。人。馬。を。備。へ。て。然。る。べ。大。將。を。遣。し。章。平。の。差。を。て。固。く。散。関。を。守。ら。り。め。漢。の。兵。馬。を。一。人。も。入。る。と。と。せ。な。さ。う。と。と。諫。け。れ。も。章。平。の。這。言。小。従。り。を。乃。ち。拒。て。曰。け。る。や。史。棧。道。修。補。の。事。の。廣。大。や。容。易。

か。わ。ね。ば。何。時。果。べ。し。も。思。れ。れ。を。介。る。ふ。人。馬。何。れ。の。道。下。り。進。ま。未。ま。る。古。又。の。あ。ら。ん。漢。兵。の。不。猛。し。と。の。も。空。を。翔。る。翼。を。あ。ら。ん。若。又。辛。苦。と。甘。ん。ど。黄。巾。總。て。嚴。と。攀。て。万。一。来。る。と。の。ふ。章。平。重。ね。て。報。さ。べ。し。其。時。軍。馬。と。調。ゆ。と。も。何。を。又。遷。か。る。べ。我。料。る。漢。族。の。起。兵。の。支。恐。ら。ん。敵。ら。巴。方。と。疑。へ。む。の。謀。計。を。有。ん。と。ら。ん。必。さ。虚。説。る。べ。し。と。章。平。が。使。を。回。し。事。も。る。け。ふ。安。然。と。備。も。立。さ。差。置。け。り。章。平。の。使。者。の。返。る。と。待。章。邯。が。辞。を。受。て。是。亦。共。み。惑。さ。れ。現。ふ。然。し。も。有。べ。し。思。ひ。今。迄。嚴。く。備。たる。番。兵。を。も。稍。弛。べ。け。れ。ば。次。第。々。々。諸。所。の。固。も。怠。勝。を。る。り。け。り。惜。乎。范。増。が。心。を。用。ひ。て。敬。言。を。無。し。不。虞。の。備。を。せ。厳。く。さ。り。や。章。邯。が。不。知。の。一。言。より。章。平。も。亦。ふ。思。り。て。竟。ふ。大。る。禍。を。招。未。せ。し。緯。の。顛。末。豈。詳。ふ。せ。ざ。ら。ん。武。王。の。王。位。を。踐。玉。ふ。や。二。百。め。ふ。及。び。て。師。尚。父。る。太。公。望。呂。尚。と。曰。ら。ん。

是これ不よ尋み々々宣のたまくは黃わう帝てい顛てん項けいの傳でん一いつ道だう今いま猶なほ存ぞんて有ありけるは師し尚じやう父ふとと合あひあつて曰いけるは其その言こと丹たん書しよ小せう載さいてありけるは王わうこれを聞きりて欲ほせば先せん齋さいを為すは武ぶ王わう乃なち慎しんとと二に日にの回かい齋さいをするは躬みづから端たん冕めんとと着き玉たまへば尚なほ父ふも亦また端たん冕めん一いつ丹たん書しよとと捧たまげて朝あさ入いりけりは登のぼりて王わう東とう面めん一いつとと立たちありて師し尚じやう父ふへば恭こうくは丹たん書しよの言こととと道だうとと曰い敬けい勝せう怠たい者しや吉きち怠たい勝せう敬けい者しや滅めつととるは敬けいとと怠たいとと相あ互たへて敬けいとと怠たいととの万まん事じ吉きち怠たい時ときの万まん事じ凶きゆうととるは是これ後ご世せいの龜き鑑かんとと只ただ章じやう平へいが怠たいを評するは為なるは大だい九く人にんの事じ業ぎやうとと為なるは敬けいの一字じとと始はりて身みとと終はりて失しはれるは何なに事じもも蹴くとと過あつてはるべしべし此こ評ひやうは是これ童どう蒙もうとと導どうくは為なるは老らう婆は心しん願げんへば教きやう言げんるは必かならずは外がい口く

第四十二回 樊噲入間諜誑章平

再また説せつ章じやう平へいの垂た父ふ范はん增じやうの檄げき文ぶんの旨しめとと始はりて程ほどの能あたり得番ばん兵へいを嚴げん一いつくは配はいすは諸しよ門もん各かく怠たいとと防ぼう禦ごの手て立た届とどけるは彼か章じやう平へいが亡なしられるは且かつ悍はん雄ゆうの氣き質しつとと敵てきとと侮あはれるは慢まん心しんよりは忽たちちと怠たい惰たの情じやうとと生せい下げ酒しゆとと酌しやくとと羊じやうとと割わりきは只ただ軍ぐん陳ちんの倦けん怠たいとと尉ゑいめては存ぞん在ざいしるは一いつ日にち一いつ個この番ばん卒そつ走そう来らいりは章じやう平へいが告つげるは只ただ今いま漢かんの兵へい士し百ひやく人にん餘ありけるは群ぐん衆しゆとと其その未ま歴れきとと訊きるは彼か等らへば校けう道だう修しゆ補ぽの為ために驅かちて其その處こへば出でるは苛か酷こくとと督とく責せき責せきふは堪たまらずは辛からしくは其その場ばとと逃にげるは願ねがひは降かう参さんして無なきは力ちからとと尽つきしては愁しゆ訴そふは及および候ととて章じやう平へい大だいきは喜よろこびは我われ曾ぞうてはより敵てき國こくの虚きよ実じつとと探たんづきして知しらんとと思おもふは然しかしは略りやくの一如ごとくは今いま敵てき兵へい役やくの苦くるとと逃にげるは一如ごとくは僥やう倖じやうとと非ひ如ごとくは敵てき圍ゐの反はん間かんゆめせば己おのれ方かたの術じゆつとと得えるは縁えん由ゆありて我われ自みづから其その者もの等らの言げん語ごの問もんを試みす

若諺の降参る。又ハ実ハ役に苦シム。難事ヲ免ス。爲ル。先其実不
 正シ。後敵ヲ破る。一助とせん。疾く呼来れ。と命をれば。采田兵陣門
 走及。百個餘の漢兵。對ハ高声。喚り。汝等ハ願の音
 趣。五大将。申上。ハ隨即。大将の宜。如何。故の降参。多。自
 実否。と正志。早く本陣。引来。よ。最。畏。命。若。聊
 も。諺。再陣。出。難。能。心得。疾。來。と。言。示。漢兵
 然。嬉。け。言。願。隨。意。速。取。上。の。直。本
 陣。召。入。ら。れて。大将。自。り。談。せ。ら。る。緯。あ。り。け。り。難。有。最。辱
 事。る。や。斯。る。仁。大。將。仕。る。と。ゆる。今。迄。劣。せ。棧。道。苛。役
 の。真。患。と。一。時。忘。れ。侍。ら。ん。噫。喜。と。動。揺。め。て。乃。ち。番。兵。の。招。入。徒
 此。章。平。が。前。め。を。出。け。登。時。大。將。章。平。ハ。近。侍。股。肱。の。臣。と。集。め

嚴然と左右列。その躬ハ中央。床几。搆。乃。ち漢兵。向。て。口。中。汝
 倚。れ。如何。者。今。何。の。故。わ。り。て。斯。降。人。と。る。る。や。凡。古。よ。り
 反。降。せ。者。陽。の。降。参。と。稱。陰。の。却。て。己。方。の。為。内。心。の。略。と。は。
 又。裏。切。刺。客。の。類。多。我。れ。ら。の。利。害。を。知。り。諺。降。を。受。る。の。愚
 將。を。ん。や。只。今。汝。等。を。召。さ。し。且。其。の。実。否。と。正。せ。し。我。漢。軍。を。破
 ら。ん。為。す。実。ハ。大。噲。が。苛。酷。と。畏。れ。逃。れ。て。林。之。圃。の。仁。德。と。莫。少。と。る
 ら。幸。ハ。命。を。助。け。て。使。へ。若。一。毫。も。諺。あ。く。殘。ら。ん。首。を。刎。れ。を
 と。士。卒。ハ。命。と。て。誓。固。さ。せ。且。兵。器。の。備。嚴。重。登。下。漢。兵。も。を
 畏。ろ。口。と。同。て。陳。さ。る。某。と。母。隱。ま。る。普。安。郡。の。民。り。け。り。ハ
 今。回。漢。王。ハ。驅。出。さ。れて。棧。道。修。復。の。役。夫。と。り。ハ。彼。処。ハ。天下。を。攻。
 の。險。阻。一。度。足。を。踏。外。せ。幾。千。尋。る。深。谷。へ。陥。り。て。身。を。失。ふ。の。と。

勦る難波の役る。終日糧不足賜らむ。且樊噲が惨刻る。大元帥の
 命令と号して。之を我々と催促。一月限り造り了む。と辛きを厭
 り。課されども。形の如くの險難る。却以一年も。いづて完ふまると。
 召ん。無益業。不役せられて。空く苦辛死せん。不如御陣。不降して。
 將軍仁義の助命。不遇ひ。骨と粉。身と砕。犬馬の勞を竭
 さん。哀れ。赦さる。ひね。この。章平。又同。命。分。韓信。漢王
 不。用。元帥。と。衆人之を。何。と。服。漢王。俄。韓信
 する。人。これ。明。白。申。さ。す。と。少。て。漢兵。再。い。漢王。これ。用。ひ。て。
 元帥。と。い。う。これ。心。服。する。者。太。少。る。その。故。先。第一。樊
 噲。固。漢王。の。親。戚。也。旧。功。も。亦。有。人。る。漢王。これ。用。ひ。て。
 韓信。と。抽。て。一。樊。噲。一。拒。て。却。て。恥。辱。と。与。へ。られ。既。新

ら。べ。り。と。諸將の。悲。し。と。い。ふ。よ。遠。命。と。免。ま。さ。る。故。表。中。服
 せ。如。く。見。と。れ。も。裏。心。の。深。く。恨。と。韓信。が。功。を。ら。ん。と。願。ふ。其。餘
 の。諸將。も。都。て。皆。如。斯。の。心。を。韓信。の。軍。令。と。嚴。く。定。めて。士卒。們
 と。勞。る。心。更。も。一。向。漢王。と。促。して。人。馬。を。起。して。攻。登。ら。ん。と。獨。自。ら。急。迫。と
 ども。衆人。然。の。如。く。服。せ。され。縦。令。軍。と。出。さ。す。と。い。ふ。も。敗。を。命。ず。る。必
 然。る。我。等。の。常。耕。作。を。の。業。と。と。れ。も。凡。て。是。戰。國。の。日。日。と。い。ふ。
 その。傍。武。藝。を。好。む。通。一。働。せ。ま。と。思。い。曾。て。從。ふ。大。將。と。撰。と。
 処。不。囚。ら。れ。樊。噲。が。為。小。驅。立。ら。れ。意外。の。苦。と。重。れ。禍。却。て。福。と
 變。今。此。御。陣。不。降。參。せ。ら。い。と。嗚。呼。が。言。う。天。の。俺。們。と。祐
 る。処。願。ふ。將軍。海。容。して。命。と。全。く。と。い。う。章平。の。這。者。の。縁
 由。遂。一。不。聞。り。て。你。併。滅。の。心。を。我。陣。中。不。留。置。べ。し。此。中。一。隊。の

繪本漢書軍談二輯卷之五

頭人くる者必むあらん誰あても苦くねば名告れ少んと睨廻さ言下ふ二
 個の兵士稍找と出て申ける其二人の普安郡の獵師を候が常小山
 獵を業とする身の本より弓箭不携り武藝も好む幸ありて乃ち漢王の召ふ
 応せし棧道の役夫百餘人の指麾を預けられし者ぞ一名と姚龍と
 稱し一名の靳武とす。頃日修補ふ加りしが日夜とすく責立らるる。
 一飯ふごも飽とせざるに空く餓死せんことを哀しむ。故郷へ返らむと將
 軍の仁心と慕ひ來れり。願くは百餘人の命を救ふ一飯を賜らば身は
 全ふして太平の時を待然して後ふ故郷へ畫錦を飾るとし得ん大幸焉
 より大なるる。身と終るまで將軍の徳を仰ぎて片時も忘るべからず如何
 で怒させぬへり。とのち章平より點頭再び又問ける。漢王韓信を擢り
 用いて將軍と成せし故あらん漢中の諸大將將これをも何と評せる

そ汝が聞し所ゆへん包む我ふ活るべし。とられて姚龍又答て韓信が兵
 法と論ぶる。口は後ふ空談する。唯蕭何これ迷ひさし頗る漢王を推
 挙して大將軍と為れども士卒皆心服せむ。殊に樊噲怒と合と竊に
 君と將軍との間を隔つ計議を多し。其外ゆも諸大將の怨を懐いて故
 郷へ逃去るもの亦多し。且韓信が兵法の素より紙上の論ゆて未だ
 兵と司りたる事とて身身うければ軍兵を指揮せむと能はむ。只嚴
 刑を以て威とす故小士卒僉信從せむ。陣中穩らざるれば漢王を畏る
 る風聞を聴知りて後悔の心起す。蕭何せむも疎んせられぬとの巷終
 己小區々る。とのち小章平心小欽び又兩名ふうち向ひて君臣和合せむ。
 時の縦令兵と起ししものも又恐るる足ざる。汝等兩人の二簾の才
 力ある者と知る。今より我ふ後して其躬相應の功績と立よ必む重く

繪本漢書軍談三轉卷之五 九二

賞せんむとく快く暮下小苗ゆり六姚龍斬武低頭して推恕の辱
 を降しん是より後心を尽しかど惜ま事一六章平其儀を喜
 まぐ試小軍中の職事と司ごうあめけるふその兩人が行ふ所く章平
 が意小合へ痒にふるの届くが如く起居奉動小至るまでも深く心を用ふ
 るが上よ上下の人々も交るゆも然て親切と尽しければ章平の心中小欲
 善輔を治さけりとも一月の中小兩名も思ふり小進めて大旗牌の官職
 も授けける然るく小章平の益軍事小合る備も疎ゆるもの
 再び使を遣して漢兵の恐る小足ざるゆと三秦王へ告よりける
 然るく小驕慢る彼方の人々の先隊の將章平より今鄭より小
 告東一うの曾てより推量一意中小合つとて各突壺入らぬるく
 上下とも小心と安んじ弥防禦の備いせざるき前話休題項王を曩

昔都を彭城小移徙より右の日夜只酒と色と小耽り泥と頻小虞
 姫を寵愛し多く宮殿と造営して奇石珍花を庭小居る綺羅錦
 繡小坐と傍で婦人をも親暱て男子とての嬖幸の近臣の外見ると
 るく漸々小朝政とも治さざるゆもして重父范増の之を直愛ひ屢
 諫て告げるゆ楚國一度勢小無し輒く三秦と滅して國強一とい
 まらせとも漢王今懷中小潛しそ声とも成ざる則兵氣を親ひて軀て
 大兵と引卒し一舉小吾楚と滅んとてその時と待侍るる然る楚の漢
 ある実小腹心の大病ゆ且く安んじ似ると雖近き小必大患と做さ故
 小早く其根と絶その枝葉と枯さふあさむ心と安んじ枕と高し日
 夜落着と難く大王願くは這義を察し酒色と遠ざけ朝政と小忠
 りも軍事を救て漢と滅とてその計畧と專と為ぬるくと言と尽

漢書卷之五 文治堂藏

ちて。託る多如く生れとも。項王更ふこれを用ひむ。却て范増とも疎んむ。色
 の外。頭とければ上下の心離叛して。恨と含むの言も。右ては楚國の
 存せんこと。必も長久出至難し。唯范増が心中。須更も安き事
 る。或夜偶庭上。道遙せし。その折。竊ふ天文と伺見る。西南
 の方。當りて。旺氣盛ふ立昇り。將星処々。散乱しければ。此必も漢王
 の腹中より。起りたる兆の頭れるる。因て憶ふ。韓信が。既漢中
 小降り。されば。漢王必も重く用ん然る時。漢兵の強れ。以前。百倍と
 きる。夫引易項王の近年。曾て仁政と修む。只殺伐と専らして。罪を
 殺し。功あると賞せむ。人民多く恨を含む。諸侯咸く離叛。六國を
 已小時を得て。奔圍殊小強大なり。漢王若兵を起し。一回三秦。攻上。六
 天下の忽地。破竹の如く。諸侯瓦解。分小自ら干戈を事とせ。漢へ倍

力と得て。朝日の天小昇る。如けん。心苦む。事あむ。項王此頃。酒
 色小溺。吾諫も用ひむ。共眼前小危と知り。君と諫る。公豆忠臣の
 心あらんや。去の趣と早く奏し。防禦の備と為む。と奏状と奉る。と
 三秦の守と固し。漢兵は備へ玉へ着あむ。公念らば。臍と嚙とも。何と及ん
 切小去の議と告れども。項王も用ひ玉と。縦令漢王兵と卒ひ。自ら
 征し。来海とも。何の恐らむ。と有ん。彼が性質。臆病なる。吾嚮小鴻門
 の會。あてあむ。汝知得。より。我力も。百斤の鼎と扛ふ。足も。一怒の眼
 と張らば。百万の軍兵と退く。小足ぬべし。と。大音小罵り。敢て。従ふて
 あけ。范増。屢歎息。を。暫し。口と籍み。右て止む。公事。な。三
 諫。及び。ける。項王。稍心解け。李良。李恒の。兩人。小。三千餘騎と授け
 らし。三秦と戒め。共小漢中の。道路と守り。漢兵の。来ら。時。一人。も。通ひ

命令下しけし二個の急ぎて夜を日小継ぎ疾く虜兵不到
 着し。ちが雍王章邯小項王の命を傳えければ章邯笑て曰く范滎の
 智將あれども却て己が智小拍まて思慮の過る事多し遠慮るん時ハ
 必逆き憂りりと孔夫子の宣ひ置ど這もす時小困まり今漢兵と防ん
 とく無用の時小兵と起し守の勢と置死ハ徒小士卒と勞し兵糧と費て
 何の益もあらん我能漢中の虚实と探りて其軍情と未得らり
 必心小懸玉ふちと章平より送らりし書簡と出せ見せると李良
 李恒とと取れ讀りて曰けり此書と以て見る時ハ漢王の韓信を
 深く用ひて楚と征はと豫め防禦の勢と催すとい実小と要父范
 増が思ひ過し只士卒と勞する而已あり我等も曾て韓信が人と有り略
 知り淮陰小存りし死ハ飢小勞れて死ると甘が漂母小食と乞受て

九死の内小一生と得たり輒生の勝と惜りて恥と市中小受たり
 臆病者ぞ在りける漸く項王小事ても素より才能るれゆ多終小擢
 用ひられし其を怨とて己が身の無能不肯と顧み楚小叛て漢小歸と
 然ると漢王の人を激る隆るる空小只辨舌小迷さ大將軍とありこれ
 ばとて人の心服せざる亦これ當然の理とぞや且棧道の張良が燒捨
 たる跡ありて天下小皆え險阻るる縦令一年修補まるとも全ふすこと
 誰かぞし今ハ漢兵起らんとまとも鳥の翼を借るふあは争り出る
 ととゆる右ハあれとも我々の只項王の命と受け今此処小あり一身を
 斬りて人教と苗置れ共小守禦の事と謀らんとい之這も時小取ての要
 務ととるふあは互小勞と少省くべと諭し自は言語小章邯
 小也々と答て馳て羊と殺し酒を設け這兩名と郷食と途中小

勞と尉めけり。是より後、日毎夜、毎酒宴、小長ト遊、與ふ耽て、敢て
 守の用意もせと、合ひてこそ居たり、けれ、大將既ふ如此、況や士卒、下々の
 酒より喫ふの、さるるを、標、蒲博奕を事として、その勝負、争ひて、口
 論ると、こと、さるる、同士、討つるも、さるる、と、章邯、初め、援兵の將、争ひ、さるる
 が、快樂、拘され、之と、制する事、とも、せと、徒、日と、送、り、徳、而、さるる、彭城
 へ、既ふ、季良と、季恒の、兩個、命令、下して、三千、餘騎、を、授け、さるる、秦
 へ、下した、れ、項羽、の、漢兵、防衛、の、備、事、足、さるる、と、心、と、安ん、ト、只、後、京
 の、閑、務、で、日夜、を、分、と、さるる、虞、姫、と、共、ふ、采、華、の、夢、を、結、び、け、程、小、亞、父
 范、増、只、一、名、心、の、さるる、思、ふ、と、り、夜、も、安、と、眠、る、と、能、る、と、林、之、長、久
 と、憶、ふ、つ、漢、と、滅、き、術、の、さるる、深、く、も、心、と、勞、け、ける、が、己、小、三、秦、へ、援、兵、を
 出、され、右、の、さるる、上、ふ、又、強、て、も、凍、め、と、容、難、空、く、項、王、の、勇、を、撓、と、朝

政をさへ治さると、甚以て憂ひと。且虞姫の色、迷ひ、眼前の大敵、知
 らず、疎み、せ、さるる、と、楚、の、大、將、患、る、と、獨、肝、膽、を、惱、む、抑、范、増、が、漢
 と、憂、ふ、る、往、昔、吳、越、の、戦、あり、一、時、伍、子、胥、が、夫、差、の、王、と、諫、め、た、と、
 古今、替、ら、ぬ、忠、臣、の、これ、真、心、と、も、い、ふ、は、欲、吳、王、の、國、の、強、は、小、驕、で、越、王、と
 輕、ん、ト、侮、で、之、が、為、小、用、心、の、備、を、せ、さるる、と、國、と、失、ひ、項、王、も、亦、その、已、強
 カ、不、誇、で、その、漢、王、と、見、る、と、小、兒、の、如、く、一、遂、身、と、亡、と、さるる、自、ら、頼
 む、所、あ、れ、必、さるる、害、と、さるる、の、る、の、慎、む、は、の、要、さるる、と、や、范、増、伍、子、胥、忠、の、能
 身、を、顧、む、と、君、と、諫、め、智、の、さるる、未、然、と、察、知、と、豫、防、禦、の、備、と、為、と
 又、も、其、事、を、さるる、用、さるる、君、の、怠、り、下、る、忠、智、空、く、行、と、ね、い、看、功、を、立
 雜、り、國、の、興、る、も、廢、さるる、も、只、人、君、の、行、に、因、る、の、閑、話、休、題、漢、の、破、楚、之
 大、元、帥、淮、陰、の、韓、信、の、夙、起、夜、寐、練、て、軍、事、の、心、と、潛、め、只、大、功、に

增補漢書卷之五

建んこと欲し。夜以日繼る。士卒の調練兵器の修補兵糧の當りて残
 所多く整えられ。此由漢王の奏聞し。出陣近に在べしと先大士の官を招れ
 ト送と命とどりし。吉日とを擇む。大士の直を遂し。履_三中孚_三の
 遇。周易の辞曰。虎の尾と履。朝令夕改。終小吉。之小由て判断さる。外卦を
 敵を取。内卦を己方とす。外卦乾多。乾を以て剛強とす。象りて虎と稱
 内卦兌多。兌と柔順とす。又和流とす。柔順和流の士卒と率て懇
 々と畏懼し。計を密する。剛強を自ら頼む。謀立する。敵を討つ。豈
 勝むと云ふや。且また内卦の兌。方位を取て西方とす。我の旺方。方位とす。
 東方の敵と討敵の既。旺位を離る。其凶又謂く。御方の吉。鳥の大方。ハ
 多との。此判断。諸大将諸士平。此回東征の戦。最憑と思ひ。

繪本漢楚軍談第二輯卷之五了

